

おんぶひも多様化



男性や祖父母のニーズに対応

乳幼児用のおんぶ・抱っこひもが多様化している。「共働きなので、子どもを預ける際に祖父母が使いやすいものがない」「父親も抵抗なく使えるものが欲しい」など、ニーズが多様になっているからだ。仙台市内の売り場では品ぞろえを充実させたり、育児全般の専門知識を持った販売員を配置したりして、ライフスタイルに合った商品選びをサポートしている。

(夕刊編集部・遠藤正秀)

多機能タイプ人気

昔ながらの定番も“健在”

乳幼児用品の専門店「アカチャンホンポ仙台泉店」(泉区)の売り場には、三十種類以上のおんぶ・抱っこひも商品が並ぶ。

「若いお母さんを中心に二年ほど前から始まった爆発的なスリングブームは一段落し、今は一つで何種類もの使い方ができる多機能タイプに人気が集まっています」。マタニティ担当の高橋真奈美さんが説明する。

中でも、リュックのように両肩で背負う「バックル式」が売れ筋だ。おんぶのほか、親子が向かい合う形の抱っこ、親子

EYE

共に前を向く形の抱っこなど、三・四通りの使い方ができる。

装着が簡単なのに加え、生後四カ月ごろから二歳半ごろまで使えるのが人気の理由。メッシュ地の袋に収納できたり、黒や茶など男女兼用で使える色をそろえたり、ファッション性に気を配っている点も、若い世代に好まれていく。価格は七千〜一万円が主流だ。

体への負担考え選択を

おんぶ・抱っこひもを選ぶ際、どんなことに注意すればいいのだろうか。かわむらこどもクリニック(青葉区)の川村和久院長(五)に聞いた。

◇ 生後三〜四カ月ごろまでは首が不安定なので、頭を支えることができるものを選びましょう。ま

百貨店「藤崎」(青葉区)は、男性用にヒップバッグ型の抱っこひもを扱っている。普段はバッグとして使え、子連れのときは手軽に抱っこひもになるという便利さが受けて、購入する客が増えている。

「いろんな商品が出ていますが、やっぱり昔ながらの定番おんぶひもは、不動の人気」と語るのは売り場担当のベビードバイザー小室由美子さん(五)。同店は昨年八月、多様化する子育てに専門知識で対応しようと、ベビードバイザーという独自の資格制度を創設。接客に生かしている。

た、股(こ)関節脱臼を防ぐには、下半身が伸びた状態になる横抱ぎタイプは避けた方がいいと指摘する専門医もいます。生後四カ月健診で股関節脱臼の心配がないことが分かれれば、さほど神経質になる必要はありませんが、それまでは、赤ちゃんにとって自然な姿勢であるカエル脚の状態(屈脚)が保て、さらに自由に脚が動かせるものを選ぶのがポイントです。

昔ながらのおんぶひもについて、小室さんは「前でひもを交差させるため、胸が強調されて嫌だと言つ人もいますが、家事をするときには、これが一番安全で便利」とメリットを強調する。祖母に子どもを預ける共働き夫婦やシブシブな形を好む人が選ぶという。

小室さんは「雑誌やインターネットなどで、さまざまな子育て情報があふれている時代。育児用品を選ぶ際は流行にとらわれず、ご自分の生活環境や育児スタイルに合ったものは何か、販売員に相談してください」とアドバイスしている。

自分の生活スタイルに合わせて選んでください。赤ちゃんの成長段階に応じて、使い勝手を考えることも必要です。経験者のアドバイス参考に、親子とも体に負担にならないものを選ぶことが最も大切。ただし、どんな商品でも長時間の抱っこやおんぶは親子とも体に負担が掛かるので、できるだけ避けた方がよいでしょう。